

Panaya の自動化による S/4HANA コンバージョンガイド

Conversion guide

「SAP2027年問題を最速、安全かつ確実に対応する」



INDEX

はじめに	03
アセスメントの「自動化」がプロジェクト 全体の予算とスピードを決める	04
従来型「人海戦術式アセスメント」をめぐる 4つの課題	05
48時間以内にアセスメント完了・精度98%・ コード修正指示も自動作成	06
SAP S/4HANA移行で 「プロジェクトのDX」を実現	09
作業進捗のリアルタイム把握/一元管理で オフショア作業のクオリティも管理	10

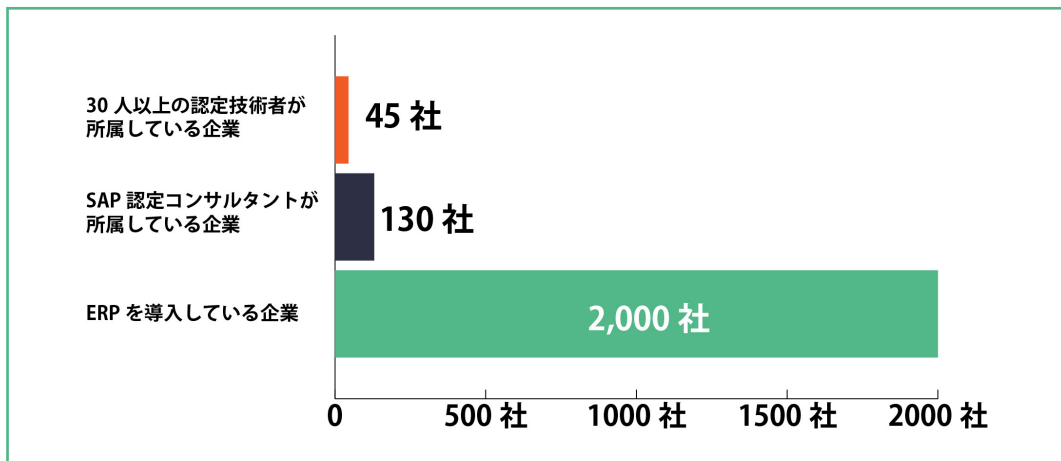


はじめに

「SAP ERP (ECC6.0)」のサポート終了が、2027年に迫っています。いわゆる「SAP 2027問題」に対応する最も有力な選択肢として、次世代プラットフォームであるSAP S/4HANAへの刷新を行う必要があります。

しかし、一般的にアセスメントから導入完了までの一連のプロセスに1～2年の期間と大きな投資を必要とするため、多くの企業で移行プロジェクトが進んでいないのが実態です。また、サポート期間終了の2027年が近づくにつれて、対応できるコンサルタント会社、Sier サイドの人材確保も困難になっていくことが予想されます。

なぜなら、日本国内にSAP S/4HANAの知見があるSAP認定コンサルタントが所属している会社は130社ほどしかなく、さらに30人以上の認定技術者がいる企業は45社しかないからです。それに対して、ERPを導入している企業は2,000社あまりあり、すべての企業が2027年までに新しいプラットフォームであるSAP S/4HANAへの移行を迫られています。



対応を迫られる企業数に対して、対応できるコンサルタント・エンジニアが圧倒的に不足しているのが現在の状況です。人材確保が困難になれば、人件費も高騰するでしょう。また、人材個々への業務負荷も増大するため作業品質を管理する難易度も高くなっていくはずで、このような状況下で移行期間が伸びれば伸びるほど、刷新のためのプロジェクト費用は高騰することになります。

SAP S/4HANAへの刷新を行う場合、一般的に現システムの3000～1万点以上の項目が分析対象になります。その中から千～数千の修正対象や分析対象を割り出し、さらにアドオンの修正、権限/ロールの修正、SAP S/4HANAで有効化される拡張機能の追加などの作業が発生します。



特に難しいのは、綿密かつ抜け漏れのないアセスメントの実施、さらにその結果を受けた作業指示書の作成と、その後の実行フェーズでのリアルタイムでの進捗管理です。こうした作業を実施するには膨大な人材が必要になります。

しかし、その作業にあたる人材は根本的に不足しています。人材が不足する環境で、人海戦術による刷新を行うのは、困難を極めるでしょう。

この環境下で効果を発揮するのが、プロジェクト作業の「自動化」なのです。

自動化を導入することで、プロジェクトのリスクが下がり、遅延防止にもつながり、人材に依らず品質を担保できます。

以下、一般的なS/4HANAコンバージョンプロジェクトの課題とPanayaによる自動化の実現方法について解説していきます。

アセスメントの「自動化」がプロジェクト全体の 予算とスピードを決める

アセスメントとは？

ユーザーごとのアプリケーションの状況を調査し、SAP S/4HANAへのコンバージョンに伴う追加開発・プログラム修正・影響を調査し、必要事項を把握してタスク化するプロセスです。

SAP S/4HANAへのテクニカルコンバージョン、いわゆるブラウンフィールド方式のプロジェクトにおいてもっとも重要なプロセスは「アセスメント」です。なぜなら、アセスメントを行わない限り、移行に必要な予算、人員数、期間を把握することができないからです。

本来アセスメントを実施する場合、システムを理解したレベルの高いコンサルタントやエンジニアを確保し、環境を整備する必要があります。

その上で、約1～3ヶ月の期間をかけてアセスメントを実施します。費用は会社規模にもよりますが、数千万を見込むのが一般的です。

しかし、従来型の「人海戦術式アセスメント」では、次のような課題があります。



従来型「人海戦術式アセスメント」をめぐる 4つの課題

課題1 SAP標準アセスメントツールを正しく使う

SAP社は標準のアセスメントツールとして「SAP Readiness Check」というツールを無償で公開しています。優れたツールですが、使いこなすためには高度な専門知識が必要です。また、コンバージョン作業を実施する上では、技術情報の読み込み作業指示を出す必要があります。

課題2 問題点の発見漏れを防ぐ

「SAP Readiness Check」の仕様の問題によってアセスメントで洗い出されるべき問題点が発見できないケースが頻出します。不十分なアセスメントはその後の費用・工期の見積もり、テストと修正作業時に大きく影響します。この問題の発見漏れは費用高騰の主要因です。

課題3 プロジェクト期間中のアップデート対応

SAP S/4HANA移行プロジェクトは1～2年ほどの期間を必要とします。その期間中にもお客様環境の変化やSAP自体のバージョンアップなどの様々なアップデートが行われるために、追加のアセスメントが必要になります。一般的な方法をとると100人月程度の人材とコストが追加で必要になる場合があります。

課題4 追加テスト行程への対応

課題3により、追加アセスメントだけでなく、追加のテストも必要になります。こうしたプロセスはプロジェクトスタート時点では、作業の質や量を予見することができません。人材不足の今般にあっては、プロジェクト完了時期の大幅な遅れを生む原因になります。

アセスメントで発生する課題のほとんどが、ツールおよび人材不足による問題です。この2つの問題により、想定外の費用発生、工期の冗長化が発生します。



48時間以内にアセスメント完了・精度98%・ コード修正指示も自動作成

そこでPanaya「自動化」ソリューションを導入することで、4つの課題をリーズナブルかつ迅速に解決します。

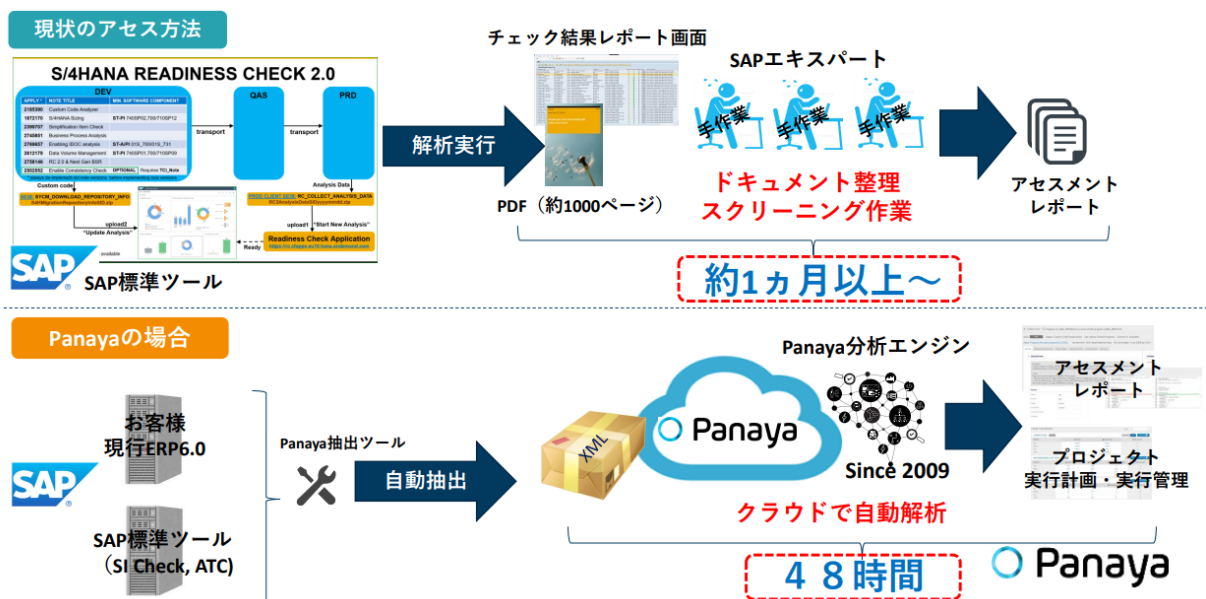
解決策1 SAP標準アセスメントツールを正しく使う

Panayaの設定を行い、システム情報をアップロードするだけで、自動で48時間以内にS/4HANAコンバージョン時に発生する問題点や修正点、アドオン変更、影響の有無が分かります。さらに、その対策についての問題の発見、及び、対応のタスク化を行うことが可能になります。

コード内容の修正指示もPanayaが自動で行います。これまで移行プロジェクトに必須だった高度な専門スキルを持った人材による修正点のスクリーニング、タスクリストのまとめ作業が大幅に削減できます。Panayaを導入することで、大量のハイスkill人材をプロジェクトにアサインする必要はありません。

「Readiness Check」を使用する場合には標準手順を正確に実行する必要があります。しかし手順は複雑で、「Readiness Check」を標準手順と理解をして正確に実行できるベンダーはごく少数です。また、抽出データの分析クオリティを担保するためにも、作業をするエンジニアに高度な専門知識とスキルが求められます。

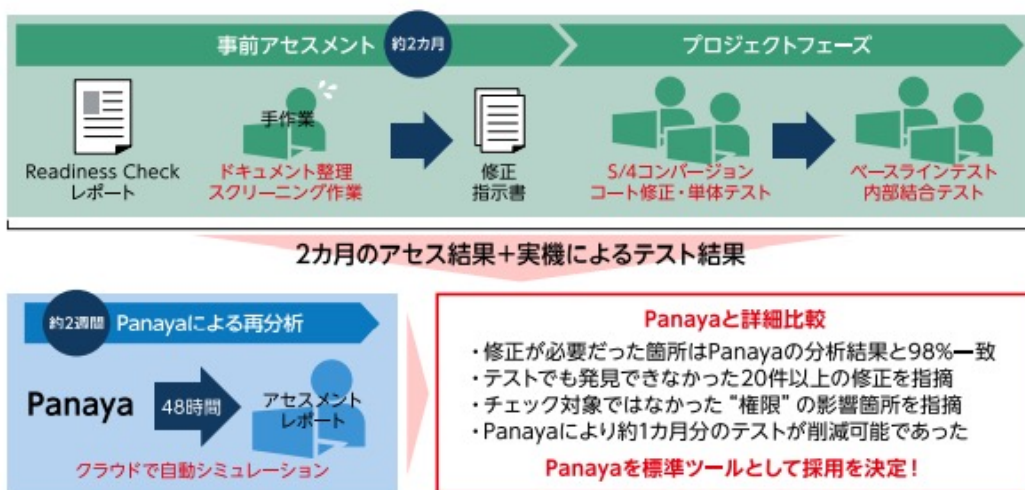
Panayaを導入いただくと、エンジニアの専門性に頼らず「自動的」かつ「48時間以内」にアセスメントを完了することができます。



解決策2 問題点の発見率（アセスメント精度）は98%

Panayaのアセスメント精度は98%と実プロジェクトで評価されています。Panayaを導入することで、何万回にも及ぶ移行プロジェクトで蓄積されたナレッジを貴社プロジェクトに自動で導入することが可能です。それが、「SAP Readiness Check」だけではカバーできない98%ものアセスメント精度を実現できる理由です。

人海戦術でこの作業を行なった場合、作業者のスキル不足や不注意、その他の影響により、ヒューマンエラーが発生する可能性があります。Panayaではアセスメントプロセスに自動化を加えることにより、この属人的なミスの発生を根本的に防止します。



1回の影響分析を48時間で完了し、結果を自動的にテスト工程に反映。何度でも利用可能。

解決策3 プロジェクト期間中のアップデート/追加アセスメントも48時間で

プロジェクト期間中の様々なアップデートに伴う追加のアセスメントや修正指示にも、Panayaは48時間で対応します。短時間でアセスメントを完了させることができるので、アップデートの度に1～2カ月を要するような、非効率な事態を防ぐことができます。

さらに、Panayaでは追加アセスメントにより、修正作業が正確に完了されているかどうかの品質チェックも同時に行います。

これにより作業ステータスについても正しく結果を反映する事ができ、更に修正漏れが発見された場合には、直ちに追加の修正としてタスク化を行います。アセスメントの自動化により、プロジェクトの順調な進捗を支援します。



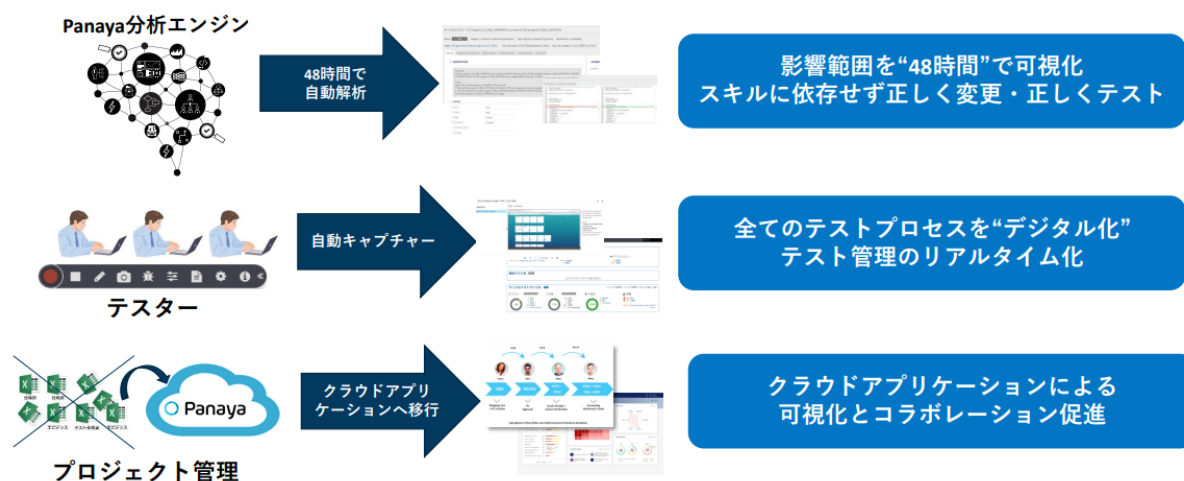


従来なら1カ月かかる影響分析を、わずか48時間で完了させる。

解決策4 テストコープの自動最適化による工期の短縮

Panaya活用による自動化の実現によってもたらされる効果は、単なるアセスメント精度の向上だけではなく、アセスメント精度の向上により、テスト工程の効率化も実現します。

問題や修正点が抜け漏れなく発見、タスク化され、更に修正点からテストが必要となる範囲を適切に明示します。これにより不要な追加テストを減らすことができ、工期の短縮に貢献します。



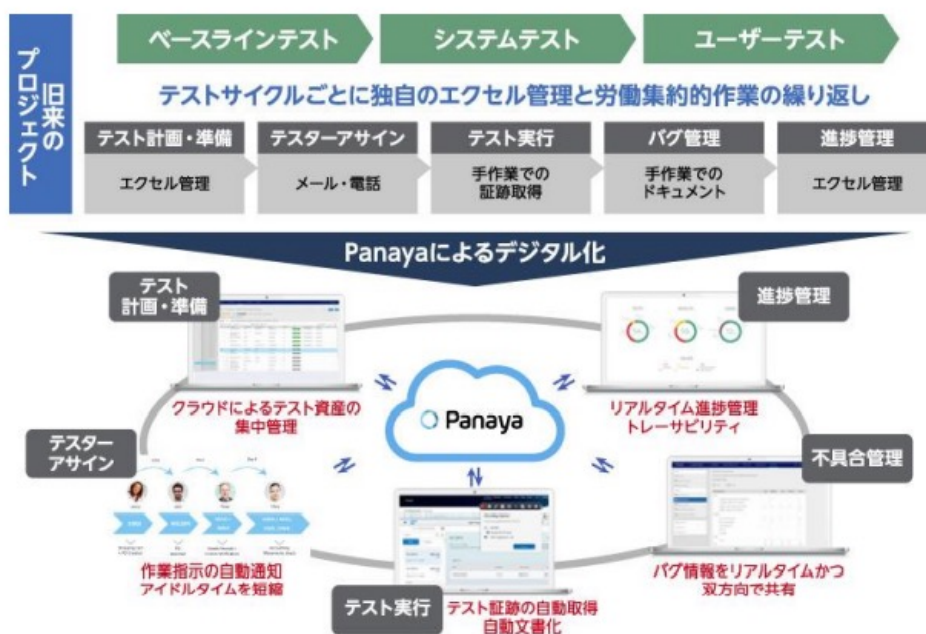
SAP S/4HANA移行で 「プロジェクトのDX」を実現

2027年に近づくにつれ、SAP S/4HANA移行に対応できる人材の確保はますます難しくなってきます。

オフショアに開発拠点を移したとしても、現地のエンジニアに適切に指示を伝え、プロセス管理、レビューが可能なSAPに精通したブリッジSEを確保するのは極めて困難です。

やはり、限られた期間や予算の中で、効果的かつ安全にSAP S/4HANAへの移行を実現するためには、「プロジェクトのデジタル変革」が不可欠です。

■ Panayaのソリューションが進めるプロセス全体のデジタル変革



データの一元管理と工程の可視化を軸に、省力化と時間短縮を実現する。

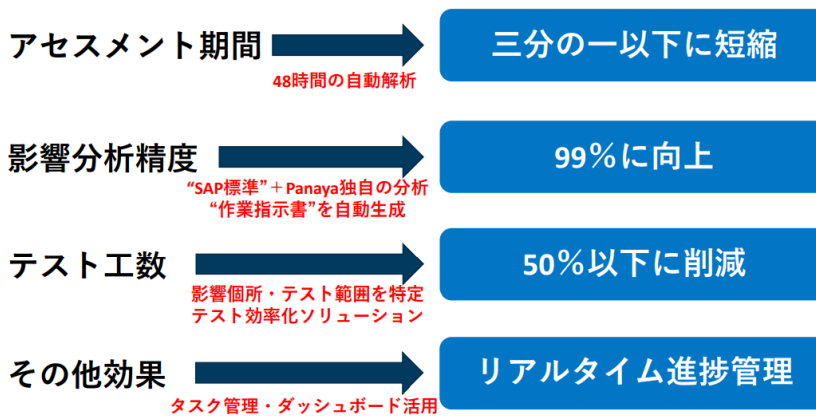
Panayaのソリューションを活用し、あらゆるプロセスを自動化することで、人材不足の解消が可能です。さらに、プロジェクトの品質リスクや遅延リスクからも貴社の移行プロジェクトを守ることができます。

発生しがちな品質リスク・遅延リスクの例

- ・ 修正が必要なタスクの発見漏れ
- ・ テスト範囲が正しく設定されていない、またはテスト不足
- ・ テスト作業、開発担当者との情報連携不足
- ・ テスト証跡が正しく取得できていない
- ・ 進捗ステータスの情報が正しくアップデートされていない
- ・ 通知遅延によるアイドルタイムの発生



Panayaならエンジニアの専門性を問わず高精度のアセスメントを48時間で完全自動化し、修正済みコードを自動で作成し提案、テスト範囲の最適化、テスト証跡の自動取得、さらに工程管理をリアルタイムで行うことができます。



作業進捗のリアルタイム把握/一元管理でオフショア作業のクオリティも管理

オフショアでのコード修正、テスト作業についても、Panayaのソリューションを導入すれば品質管理は容易になります。すべての作業進捗を1つのダッシュボードで一元管理することができます。

開発環境が海外であっても、どのようなロケーションであってもコード修正、テストの進行状況をリアルタイムで把握し、指示やフィードバックを行うことができます。PanayaのソリューションはSaaSで提供されるため、国内の開発環境とオフショアをシームレスに繋いで1つの時間軸で管理することが可能です。

最後に

「SAP ERP (ECC6.0)」がサポート終了を迎える2027年は、もうすぐそこです。期限に近づくにつれて、SAP S/4HANAへの移行を急ぐ企業は増えることでしょう。

さらに、昨今の円高の影響で、オフショアであっても人件費の高騰が著しいのが現状です。また非常事態に急な人材確保が困難であるため、納期通りに品質を保ってプロジェクトを完了させる事は極めてリスクが高い状況にあります。「SAP ERP (ECC6.0)」のS/4HANAへの移行を行う予定の企業様は、速やかにプロジェクトの確認に入られるとともに、Panayaが提案する「プロジェクトのデジタル変革」をぜひご検討ください。

貴社のSAP S/4HANA移行プロジェクトの成功を心よりお祈りしております。



○ Panaya

Panayaのチェンジンテリジェンスプラットフォームを導入すれば、短期間でアプリケーションを変更し、継続的にイノベーションを起こすことができます。

また、Panayaのクラウドベースのアプリケーションとテストソリューションにより、ビジネス部門とIT部門の連携が可能になります。迅速なリリースと妥協のない品質でビジネスアジリティの向上を実現するPanayaは、アプリケーションのライフサイクルをエンドツーエンドで可視化し、快適なユーザーエクスペリエンスを提供します。

2006年の創業以来、62カ国で3,000社（Fortune 500にランクインしている企業の1/3を含む）がPanayaを利用して、ERP／CRMアプリケーションの品質を短期間で向上させています。



詳しくは Panaya info.jp@panaya.com までお問い合わせいただくか、
公式サイト www.panaya.com/jp をご参照ください。



 Panaya